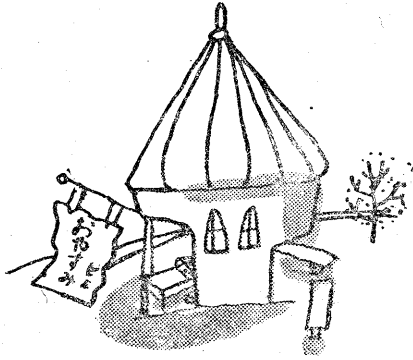


## 新入幼児を迎えるための 環境設定と心の準備



北 村 次 子

新しい子供を迎えるよろこびは、何年の経験を経て同じ事です。そして、毎年新しく入って来る子供達と、全く違った子供達が今年も多勢入って来ると云う感覚は、何年たっても同じ様な緊張感となって感じさせられます。

新しい子供も、大きな希望と、より大きな不安を抱いて幼稚園の門をくぐるに違いありません。親にうながされて、無理にくる笑顔を、その瞬間に自然にほころびる笑顔に変えて行きたいものです。

「環境設定と心の準備」非常に重要な事で、なめらかな語として聞き、出来た様なつもりになり、そしてなんてむずかしいのだろうと何時も思うのがこのことばです。

・ 新しい幼児一人一人に住み心地のよい幼稚園

・ 誰もが心から楽しく遊べる友達と、心からふれ合う事の出来る先生。

・ どの家庭とも連絡のとれた仲のよい幼稚園ばく然としたつかみ方をしました。が、子供にふれて、子供と遊んでいる私共にはこんな事が感じられるのでは

ないでしょうか。

### ◎ 住み心地のよい幼稚園

あの子も、この子も、同じ場所に遊んでいながら、一人一人に行きとどいた心がまががしてあれば子供は、安定感をもって遊ぶことが出来るでしょう、同じ材料を持ちながら、どの子もが、自分の持っている力を十分に伸す様になるでしょう。

勿論、これは、園全体の設備が、その園なりに充分活用されていなければなりません。

健康的な明るさ、清潔な雰囲気、保育室にも園庭にも一つ一つの遊具にも便所にも心がけられなければならないと思います。

清潔にすることが強調されると、冷たさを伴うことがあります。暖かい清潔さという言葉を使って考えてみたいと思うのです。

保育室の窓ガラスは、何時でも太陽の光が通る様にみがかれているでしょうか、うすぐらい廊下にも花をかざり、古くなった椅子までが何か新しく、なる感じがする保育室を想像して見ることが出来たら迎えられる。

れる子供は幸せでしょう。

遊具のあり場所、種類ももう一度調べて見ましょう。頭の内にある状態では満足出来ません。去年一年間無事だったからと云う事では、マンネリズムな新鮮みのない幼稚園を仕立てて行くようなことになると思います。

「あぶないからのらないこと」等、札を立てる前に、あぶくないあそび場所、物にしておかなければなりません。

無駄な釘、積木のささくれ、少しかけたまゝごと用具等、つまらぬ小さな事も気を付けたいと思います。

庭のすみが物置の役目をして、古材をつんだりしている所があったらきげんなことです。庭は遊べる庭として活用出来る様に考えなおしましょう。せまい庭を有意義に活用するには、遊具の位置と、行動の範囲を細かい位までに考えなければなりません。

便所はどうでしょうか、便所が一人で完全に使用出来る様になれば社会生活と同時に、集団の内の一人の行動も出来たと云う

事になるのです。始めは先生と一緒に行っていた子供が一日も早く、一人でそつと行かれる様な所にしたのです。一人で行くことと思つた便所が、うすぐらかつたり、臭気がこもつていたり、きたなかつたりしたら、一歩一歩前進しようとする発達をさまたげる事にもなるのです。

手洗いの場所も、何時もビジャ／＼した感じだつたり、したら、指先だけで終つてしまふ様な手洗いをする様になるでしよう。

よい習慣をつけるには、よい習慣のつく様な、施設設備がしてなければならぬと思ふのです。

この他、下駄箱のあり方、帽子かけの様子、そして急救箱の使い方、応急な手あての方法もう一度考えなおしてみましょう。

#### ◎ 友達と先生

先生は、子供達にとつて母親と同じ様につきまといたい存在であることは、母親からはなれた子供にとつて当然のことでしょう。

玄関で「おはようございます」と先生に

迎えられる時、四角四面な挨拶のみに終らず、「きれいなほつぺたね」とか「元氣なこと」「赤い靴ね」お世辞ではなく、心から一人一人の子供に接したら、子供はどんなによるこび安心するでしょう。

どの子にも親しめて、自分の組だけに集中しないこともこんな場合には大切な事だと思ひます。

幼稚園の仕事は何年経験したから自信が持てたなど云うことはないと思ひます。

先生の自信は、どんな場合にも傍観せずにつぶつかり、自分が行動すること、反省すること更に前進することによって自らつくり上げて行くものだと思ひます。牛の様なたたゆまぬ努力と、鹿の様な敏しょうさをほしいものだと思ふのです。

一日で全部の子供を知つた……楽しく遊んで終つた……子供と先生のふれ合ひはこんなあさい物ではないと思ひます。

ひざつこをすりむいた時、マキキロを付けてもらつて、先生がしつかりつかんで下さつたひざつこを感じながら、本当に先生にすがつた気持になれるのではないでしょ

うか、となりのあいた椅子に、先生がこしかけて皆と遊んだ時、そのとなりの子は先生と直接つながりを持つかも知れません。どんな時に、どんな場がひろげられるかわかりません。先生はどんなところにもそつと眼をくばっておきたいと思うのです。

あの子とあの子は同じ色のセーターで、友達になりました。この子はけんかをした次の日に親しそうに話していました。そつと寄っていつて手をつないでうれしそうにしています。子供同志のつながりも、皆な仲よくするんですよと云うまでもなく一つ一つの瞬間にひろげられて行く様です。

玩具、遊具の数と幼児の数は、子供に協同生活の楽しさを味合せることにも、いがみ合う事にもなるのです。多すぎて無駄な事は必要ありません。誰もがそつと何かに手を出せる様に用意しておきたいと思いません。

狭い庭にも小さな花壇を工夫し、とり小屋等も考えてみましょう。狭いからくと

云っていたら何も出来ません。狭くて活動出来ないのなら、広い所へ行つて遊ぶ計画を立てればいいのです。たった二羽のにわりの卵をためて、級ごとにいたゞくことが出来たら、たとえ、四分の一でもどんなに鳥を大切にし、やさしい気持を持つ事が出来るでしょう。

### ◎ 家庭と幼稚園

「どうも、幼稚園は……」ともし子供の一番好きなお母さんの口から、無意識に幼稚園や先生の批判が出たら、次の日から子供は何をたよりに幼稚園に行くのでしょうか、幼稚園に入園した子供と同時に、家庭と幼稚園が一つの方向に進む事をお互に話し合わなければならないと思うのです。家の教育方針に合わないからと云つたら子供こそ可愛想です。

### ◎ 入園の日

明日は入園の日、とお互に心まちにしていきます。先生の展覧会の様な迎え方、アーチを立て五色のテープをかざり、こうしたらああしたらと、こりにこつた装飾、これも先生の気持でしょう。けれども、落付い

た色合せと、無駄のない活用を心がけましょう。額の位置や内容、大きすぎる黒板を半分やわらかい色でおつたカーテン、花びんの花、卒業して行く子供達や、年長組のお友達が、心からたのしんでかざつた装飾、これで充分です。

暖かい清潔さを、心静かに思い浮べて見たいものです。新しい子供に接する準備、そして教師一人一人の心がまえ、いらくしていたり、教師同志が協力出来なかつたり、細かくは、自分の髪が乱れていたりしない様に、心やすらかな笑顔が、明日迎える子供にみせられる様にしておきたいのです。

× × ×  
環境準備も心がまえも何もかもがまとまりなく出て来てしまいました。

子供は生きて動いています。先生も足ぶみをしてはいられません、今日も新しい空気の中で思う存分、子供と一緒に遊べる先生でありたいと思います。ゆきとどいた目ざしで子供の一人一人をみつめられる先生でありたいと思います。

(文京区立第一幼稚園)